

## 7. 袋掛け

ももの表面を強風や強い日差し、病虫害からの保護するため袋掛けを行います。

袋掛けは、6月中旬頃を目安としていますが、生理落果しやすい品種ですので、他の品種より袋かけも遅くしてください。ただし、せん孔細菌病に弱いので、発生が多い場合は早めに袋かけを行ってください。高い所から低い所、奥の方から手元の方へ順序良く行い、一度掛けた袋には触れないようにしましょう。

ガク片（花かす）が実に着くと、灰星病や灰色かび病の発生源となるので、ガク片を落として袋掛けを行きましょう。

### (1) もも袋掛け

一重袋は、葉や枝とのこすれによる傷つきや害虫・鳥などの被害から守るほか、病原菌などの侵入を防ぐため、撥水紙の袋を使用します。

二重袋は、一重袋の機能に加え、除袋作業時間の短縮や着色の向上などのメリットがあります。

品種や玉肥大に応じた大きさの袋を使用してください。



▲一重袋



▲二重袋

## (2) 袋かけの方法



あらかじめ袋をふくらませておき、果実を袋内中央に入れ、V抜き部に枝を入れる。



止金のついている方を手前にして重ねる。



後ろになっている方（止金のない方）を、止金を包むようにして前へ折る。



止金を向こう側へ折る。